

令和4年度アンケート調査結果報告書

共生型福祉サービス事業所「タップチップス」【児童発達支援・放課後等デイサービス】を利用されている保護者にアンケート用紙を配布した。

記載していただいたものを参考に職員全員で、現状の課題を分析した。

課題について

環境・体制整備について

日本財団が主催するみらい福祉施設建築プロジェクトの説明会に参加をして、事前に構想を練り応募をしたが、結果は落選となった。次回は再度構想を練り直し、継続的に応募を行っていく。

助成車両についても利用者の利用状況にあった送迎が出来るように必要な際は応募を続けていく。

月1回、職員会議を行い業務の質の向上や子供たちの情報を共有しながら支援の方向性や対応について話し合いをする場所を設けており

業務改善項目について

部会活動については（研修部会、虐待防止委員会、子供アプローチ部会、送迎部会、食事提供部会、入浴・医療部会、事務請求部会、日用品チェック部会、清掃部会）を前年同様の部会編成で行っている。

年間を通して滞りなく業務を行う事ができたが、限られた職員なので部会の編成などに工夫が必要な状況も出てきている。今後はより業務に活かしていくために、部会の編成を職員会議や部会内での振り返りや話し合いを行い改善点などを把握し活動の質の向上を目指していく。

適切な支援の提供について

保育士試験等も積極的に受験しており、職員の専門性を向上させている。今年度は2名の職員が保育士試験合格となっている。また積極的に様々な研修受けており、保護者や子供たちが安心して利用できるよう努力している。外部からの研修を予定していたが、コロナ過の為自粛を行っている。今後は外部研修を行い様々な知識、方向性から支援を行っていく。

子供の支援については月ごとに日常生活に必要なテーマをイラストや文字を使って視覚的に分かりやすく、子供達が理解しやすいように工夫を行った。テーマを意識してもらう為、子供達にテーマが書いてある紙を渡し一緒に朗読を行っている。月のテーマに関してはタップチップ（得点をあつめるチップ）との繋がりなど改善点があるので、今後改善していければ。支援については工夫や改善すべきところがまだある為、職員会議などで職員の意向や支援内容について話し合い、よりよい支援が行える施設を目指していく。

長期休暇の際の療育や誕生日会、クリスマス会といった全員で参加できる行事を職員間で協力しながら進めている。

第三者評価は実施できていないため課題である。

関係機関との連携について

保護者の意向を汲み取り、状況に応じて他事業所や学校等の連携を図っている。情報の共有については朝礼時に報告をして職員間で共有を行っている。今後も引き続き行っていく。

自立支援協議会の医療・児童部会に参加するとともに、自立支援協議会の研修等にも積極的に参加し必要な情報

は職員会議等で伝達している。また、直轄地区地域生活支援拠点等緊急受け入れ事業の説明会にも参加し、具体的に制度が運用されれば事業所として登録する予定である。

地域支援事業やふくおかレスキュー事業など生活に困難な方を受け入れる体制を整え事業所としての幅を広げて行っている。

保護者への説明責任について

前年同様、新型コロナウイルス対策として保護者の参加はご遠慮していただき、代わりに各保護者へのアンケート調査を行い、その内容を支援に反映させた。現在誕生日会や行事年間行事の見直しを行い、長期休みの療育などもそれぞれ職員間で協力し、実行しているので新型コロナウイルスが落ち着いてきているので、状況に応じて保護者会などを再開していければ。

新たな取り組みや活動を行う際は文章で保護者に説明をしている。

新型コロナウイルスの対策の為、保護者の了承を得て、個室対応している子供もいたが、現在は以前のように同じ室内で過ごせる状況が増えてきていた。今後は年間行事を再開させていき活動内容の動画などを保護者と共有出来ていければ。

タップチップに関しては年間の表彰を行い社会科見学もかねて、作成したチケットを使用してお買い物体験をしてもらい活用している。施設の利用が少ない子供たちとの差が出ていたり、改善点などはまだあるが、改善点を見直しさらに定着していければ。行事年間スケジュールをホームページ等を活用してお知らせしている。

非常時等の対応について

避難訓練は10月に消防署の方に来ていただき避難訓練を行った。年2回を予定しており今後行う予定。

虐待防止や身体拘束については職員会議等で勉強会を行い、職員の理解が深まるように、その都度学習の機会を作っている。

身体拘束が必要な児童については、保護者より「同意書」を取っているが、虐待に繋がらないように細心の注意を払い拘束が必要な際は事前に拘束が必要な理由を保護者に伝え確認を取ってから行うようにしている。

利用時のアレルギーについては、看護師・栄養士を中心に十分配慮をして食事提供を行っている。

利用時が怪我をしたり、怪我をしそうになった時の状況はヒヤリハット、事故報告書に記載し記録を残している。

全職員よりの総論

職員が定着してきており、業務や部会、職員会議、研修を通じて基盤が出来てきているが、まだまだ改良していくところは多々ある。今後は支援の質の向上や職員それぞれの専門知識を生かして組織全体で協働し利用児に合った支援を行えるように目指していく。

事業の自己評価や保護者のアンケートを振り返り、部会活動などを通じてよりより支援が行えるように改善を進めていく必要がある。

新型コロナウイルスは落ち着いて来てはいるが、油断できない状況が続いている為、引き続き手洗い、消毒、マスクの使用送迎車の換気をおこない、状況に応じて以前のように1つの部屋にみんなが集い行事などを通じて楽しい空間を作り上げていけるように全員で協力しながら安心して通える施設を目指していく。

〒823-0001

福岡県宮若市龍徳字野入1081番地
社会福祉法人 心誉会
共生型福祉サービス事業所 「タップチップス」